

# 東日本大震災・原子力災害伝承館 令和3年度の事業実績



## ■東日本大震災・原子力災害伝承館運営状況

・伝承館は、東日本大震災と福島第一原発の事故による未曾有の複合災害の記録と教訓を、国や世代を超えて継承し、復興に向かう福島の今を情報発信するため、令和3年度は特に以下の方針のもと取組を進めてきた。

### ● 令和3年度の基本方針

1. 引き続き多くの方に来ていただける展示、企画
2. 次世代に繋ぐ
3. 自治体との連携
4. より分かりやすい展示



#### (1) 入館者数の状況

●通年の年間目標50,000人  
 令和2年度実績 **43,750人**  
 (団体10,097人 23% 個人33,653人 76%)  
 (令和2年9月20日開館 ※令和2年度目標：30,000人)  
 令和3年度 **54,043人** (2月末時点)  
 (団体22,689人 42% 個人31,354人 58%)  
 累計 **97,793人**  
 (団体32,786人 34% 個人65,007人 66%)

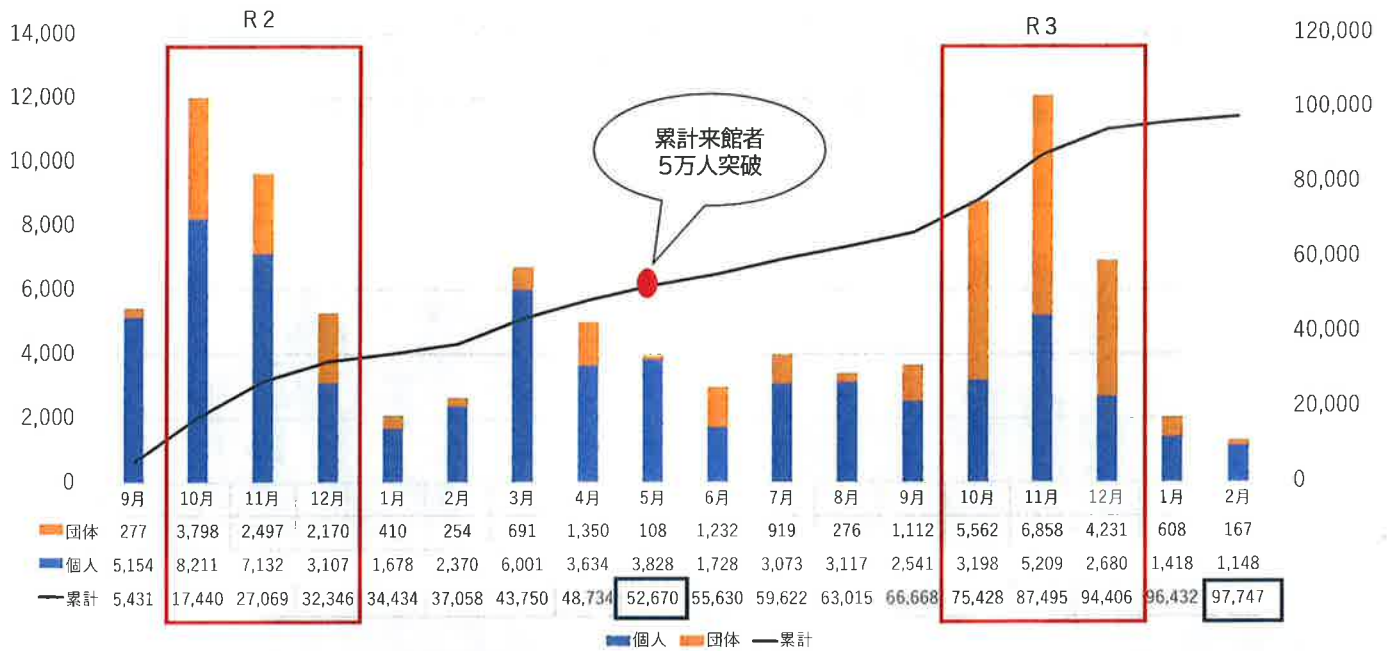
#### (2) 教育旅行等による入館状況

教育旅行の訪問先として、開館初年度に続き多くの実績を積み重ねた。コロナ禍にも関わらず、県内外から多数の学校を誘客できた。

ア県内の学校 延べ180校 10,390人 (前年88校4,423人)  
 (小学校39 中学校71 高校67 特別支援3)  
 イ県外の学校 延べ80校 6,414人 (前年22校1,759人)  
 (小学校3 中学校30 高校45 特別支援2)

令和3年度実績 県内外合計 延べ260校 16,804人  
 (2月末現在)

# 来館者数推移



✓ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けるも、来館者数は堅調に増加

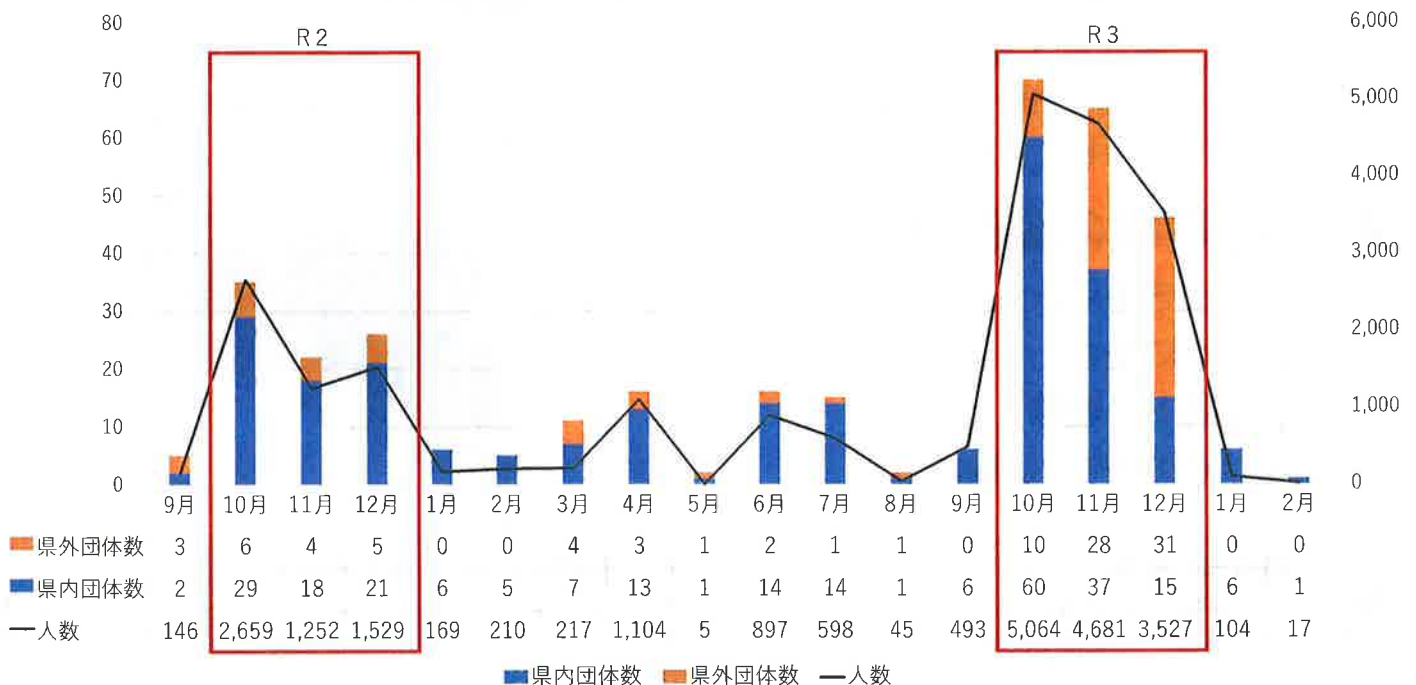
2001/5/3 累計来館者 5万人超  
2022/3/14 " 10万人超

✓ 団体来館者の比率増加傾向

前年同月比 **28.5% ↑** (団体来館者数 10月~12月比率 R2:31.5% → R3:60.0%)

3

# 学校団体来館者数



✓ ハイシーズン(10月~12月)の学校団体来館者数は昨年度(R2年度)より増加

前年同月比 **7,832人増加 ↑** (学校団体来館者 R2:5,440人 → R3:13,272人)

✓ 県外学校団体数の比率増加傾向

前年同月比 **43.5% ↑** (県外団体数 10月~12月比率 R2:18.1% → R3:61.6%)

4

## ■語り部

・開館日は午前・午後それぞれ2回講演。

※ 令和3年度は2月末時点で約4,500人が聴講。

・講演テーマをホームページや館受付コーナー、語り部実施部屋前に表示。

・館内語り部を育成するため、研修事業を1回実施

※2回実施予定も新型コロナウイルスの影響により2回目を中止

・現在32名の語り部の方が登録、講演活動を行っている。

・伝承館スタッフ6名も講演実施。

(若い世代に語り継ぎ若者目線の体験を伝えることを目的に  
5/15 若手スタッフ3名デビュー 報道多数)



※ 写真：デビューした若手職員3名 いずれも小学校時代に被災し、学校から避難して津波から逃れた体験や、混沌とした中で家族と避難を重ねた経験、多感な時期に県外で避難生活をし温かい交流をした体験などを語る。

### <講話を聴いた方の感想等>

- ・客観的な事実だけでなく、その人の行動、気持ち、思いを聞くことが大事だと思った。
- ・語り部を聴いただけでも来館した甲斐があった。
- ・生の現状、話が聞けて良かった。
- ・毎日4回実施と充実している。
- ・当時中学生だった方のお話を聞いてよかった。
- ・もっといろいろな語り部さんのお話を聞きたいと思った。

5

## ■常設展示の充実(1)

1. 「福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想研究会」座長として、構想研究会報告書を取りまとめた、赤羽一嘉・元国土交通大臣（元原子力災害現地対策本部長）による、当時の証言映像資料を追加。

- 展示内容の充実により、複合災害の記憶と記録を後世に伝えるとともに、復興に向け挑戦する福島県の姿を発信していくため、展示コーナーの一部を改修。
- 2022年2月23日より一般公開開始。



2. 実物展示として、福島ロボットテストフィールドで飛行試験を繰り返したテトラ・アビエーション株式会社の「空飛ぶクルマ（Mk-3）」と第5回廃炉ロボコンで文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞した福島高専のロボット「メヒカリ」を追加。



テトラ・アビエーション Mk-3



メヒカリ（福島高専HPより）

## ■常設展示の充実(2)

### 3. 海外からの来館者対応

- (1) プロローグシアター映像の外国語音声（英・中・韓）の音声スピーカーから出力されるように改修した（従前のタブレットも維持）。
- (2) 常設展示映像合計4本に英語字幕を追加した。



シアターの言語切替端末



動画に付けられた英語字幕



### 4. 屋外展示の改修

- (1) 消防自動車の展示手法を、直置きから架台に載せる形式に改め、資料保全を図るとともに、観覧者に見やすくした。
- (2) 双葉町内に掲示されていた原子力広報パネルを、長期保全の観点からレプリカの展示とした。



架台に載せた消防車

## ■企画展示（1）

### 1. 秋田出張展示(2021. 4.29～5.26)

イオン秋田中央店で写真展示。  
伝承館として初めての県外での情報発信を行った。  
来場者は約1,000人。



### 2. 双葉町特集展(2021. 7.14～8.30)

「東日本大震災・原子力災害 双葉町の記憶と記録」

伝承館企画展示室にて双葉町資料を展示。

地域と深く連携していくという方針のもと、一つの自治体に絞った初の企画展を開催した。

期間中に町職員および学芸員による解説や映画上映会等を実施した。来場者は約6,000人。



## ■企画展（2）

### 3. 絵本企画展「絵本から学ぶ 子どもに伝える大震災」 (2021. 10.9~11.8)

当館アテンダントが協力して発行した絵本や双葉ばら園に関する絵本その他震災関連絵本約140冊を展示し、親子で震災を考える機会を創出した。

また、11月3日は絵本作家等による対談を行い、絵本の魅力、親子のコミュニケーションツールとしての役割、震災伝承における可能性などについて意見交換をした。

特別対談「絵本で伝える大震災」の様子(11.3)  
絵本作家 松本春野氏（左）  
同じく はかたん氏（中）  
福島大学 本多環氏（右）



特別講演「バラ園の歴史と震災」(10.17)で講演する双葉ばら園長岡田勝秀氏



展示風景

### 4. 伝承館連動企画 「浪江町の学校と震災」(2021. 10.15~)

「震災遺構 浪江町立請戸小学校」が10.24に開館するのに合わせて企画した。震災前後の請戸地区の様子や原子力災害及び長期避難等の影響で閉校となった町の学校の様子を伝えるなど、複合災害が地域に及ぼす影響の一面に焦点を当てた。また、請戸小学校に残されていたピアノの展示を11月10日より開始した。



## ■企画展（3）

### 5. Jヴィレッジパネル展（伝承館との相互企画）（2021. 10.18~11.29）

地域連携及び施設間連携の一環として両施設が連携した初めての展示企画。伝承館では、Jヴィレッジにおける原発事故後の対応の記録パネルや、サイン入りのサッカー日本代表ユニフォーム等を展示し、Jヴィレッジでは伝承館提供による震災と原子力災害の事実を伝えるパネルを展示した。



### 6. 「映画『家路』でみる あのとき これから」パネル展 (2021. 12.16~2022.1.31)

2014年に撮影され、公開された映画「家路」のパネル展示を実施した。

このパネル展では「家路」久保田監督が2021年に当時のロケ地を再度巡って撮影した映像を展示した。また、農業指導を担当した秋元氏の2011年からの川内村における米作りの記録も合わせて展示した。



## ■企画展（4）

### 7. 長崎特別展示（2021.12.3~12.19）

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館にて企画展を実施した。合わせて福島と長崎の語り部交流も実施し、語り継ぐことの大切さについて意見交換するなど、伝承館として初めて県外での語り部活動となった。来場者数は約680名であった。語り部交流活動には71名が参加した。



### 8. 長崎原爆・平和展（2022.3.5~3.21）

長崎特別展示の折に長崎平和推進協会から打診を受け、広域的施設間連携の一つの試みとしてミニ企画展示を開催。

- 【内容】①震災時の福島と長崎との関わりを示す写真パネル  
②長崎平和推進協会の原爆関連の写真パネル



11

## ■企画展（5）

### 9. 大熊町特集展（2022.3.4~5.9）

「東日本大震災・原子力災害 大熊町の歩みとゆくえ」

双葉町・浪江町に続く、一つの自治体に絞った展示。

大熊町の原発誘致以前の土地利用から、復興に向けて進む町の取り組みなどについて展示している。

3月中の土日祝は「じじい部隊」と町職員が展示の説明や震災後の経験・想いを話している。



## ■その他の取組

### 1. アバターによる館内見学

民間企業（ANAあきんど）と連携してロボットを用いた遠隔展示館覧を試験的に実施した。観覧者は自宅から「アバター」と呼ばれるロボットを操作し、伝承館学芸員の案内で常設展示室内の一部を観覧した。



12

## ■ イベント（1）

### ○セタイベント

(2021.6.17～7.15)

地域の交流の場を創出し、伝承館を身近に感じてもらうこと等を目指し開催。双葉町両竹地区の竹を館内に設置し、来館者や双葉郡内の小中学生が記入した震災や復興への想い・願いについての短冊を飾った。



短冊への記載内容

- ・震災の時に助けてくれた日本中、世界中の人に恩返しをしたいです。
- ・誰もが帰りがやすい町になりますように。

### ○学芸員解説イベント(2021.8.14)

「親子で学ぶ・伝える東日本大震災・原子力災害」

クイズや展示物を実際に触ること等を通し、東日本大震災の全体像や原子力災害について学ぶ機会を創出する企画し、小学生とその家族ら4組が参加した。

今後も児童、生徒の長期休暇に合わせた開催を検討する。



## ■ イベント（2）

- ・震災の記憶の風化防止に向けたイベント「あの日からの経験をふくしまの未来へ」を開催。(2021.11.6)
- ・震災の記憶や教訓、復興に向けた取り組みについて、様々な企画を通じて発信。参加者は約350人

【イベント内容】

### ●トークセッション

第一部 「相双地区だからできること」

▷相双地区で活躍する企業代表、ふたば未来学園生徒ら4名による、地域の未来について意見交換

第二部 「3.11の経験とこれからの地域づくり」

▷高村昇館長と辰巳琢郎氏（あったかふくしま観光交流大使）による被災地支援や「食」を通じた地域づくり活動等についてトーク

### ●その他のイベント

現地ツアー（伝承館周辺）、起震車体験、防災インショー、いちにち動物園 高校生マルシェ、その他



トークセッション（第二部）の様子



高校生マルシェ



防災インショーの様子



## ■ イベント（3）

- ・映画連携イベント『映画「家路」でみる「あのとき」「これから」』（2021.12.16～2022.1.31）
- ・被災地住民の心情を描いた映画をとおして、改めて震災直後の状況を振り返り、「あのとき」と「これから」について考えるイベントを開催。

### 【イベント内容】

#### ●トークイベント（2022.1.22）

同映画の監督 久保田直氏と 川内村民 秋元美誉氏、高村館長による対談を実施ロケ地の撮影時と今の姿について当時を振り返りつつそれぞれの思いを語る

#### ●オリジナル映画上映（2022.1.15）

#### ●パネル展示（2021.12.16～2022.1.31）

久保田監督が2021年9月にロケ地を再訪した際の映像と映画のシーンのパネル展示



トークイベント



オリジナル映画上映



パネル展示

15

## ■ イベント（4）

震災から11年。メモリアルイベントを通じ、犠牲となった方々を悼み、震災の記憶や福島を発信することを目的にメモリアルイベントを開催。

参加者は3日間で941人（2022.3.5（土）、11（金）、12（土））

### テーマ「キオク ツナグ ミライ 2022メモリアルイベント」

#### ①トークセッション（3.5）

##### ■第一部 テーマ「震災の経験を次世代へつなぐ」

- ・NPO法人Jin 川村 博氏
- ・一般社団法人ふたばプロジェクト 山根光保子氏、
- ・福島県立会津学鳳高等学校生

##### ■第二部 テーマ「福島と広島、長崎をつなぐ」

- ・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 館長 久保 雅之氏
- ・国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 館長 高比良 則安氏
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館 館長 高村 昇



##### ■ふたば未来学園高等学校演劇の放映（新型コロナウイルスの影響により収録画像を上映）



トークセッション第1部の様子



トークセッション第2部の様子



演劇の上映

16



## ■ イベント (5)

### ② 追悼イベント

■ ピアノ、箏演奏及び追悼花火 (3.11)  
(関連イベント)

■ キャンドルナイト (3.10～3.11)

※一般社団法人LOVE FOR NIPPON・相双地方振興局共催

■ フラワーズエール (3.11～3.13)

※双葉町主催

### ③ 特別講演・活動報告

■ 特別講演 テーマ「手探りの広域避難～全町避難の実態～」

浪江町元副町長 宮口 勝美氏

行政の現場で原発事故とその後の全町避難等に対処した貴重な体験を語っていただいた。

■ 伝承館調査・研究部門活動報告会 (3.12)

高村館長及び上級研究員3名(福井大学 安田伸宏教授、  
東京大学 関谷直也准教授、立命館大学 開沼博准教授)等



キャンドルナイト (伝承館)



ピアノと箏のコンサート



浪江町元副町長による特別講演

大風あげ (伝承館広場) 17

## ■ イベント (6)

「出張コミュタン at 伝承館」

当館の震災の記録や記憶・教訓等を学ぶ展示と、放射線やふくしまの環境が学ぶことができるコミュタン福島との連携により東日本大震災や原子力災害についてより深く学ぶことを目的に開催。

(2021.12.18～12.19)

【イベント内容】・触れる地球 (災害コンテンツ: 震災時の津波が広がっていく映像)

- ・霧箱及びクルックス管体験 (放射線に係るコンテンツ)
- ・身の回りの放射線を測定GM管)
- ・コミュタン福島クイックツアー体験、おうちdeコミュタン紹介



**出張コミュタン at 伝承館**

東日本大震災・原子力災害伝承館

日時 令和3年12/18土～12/19日

場所 東日本大震災・原子力災害伝承館内 (〒979-4401 福島県双葉郡浪江町大字中野字鶴屋59)

伝承館の展示見学 コミュタン福島ブース

日時 令和3年12/18土～12/19日

場所 東日本大震災・原子力災害伝承館内 (〒979-4401 福島県双葉郡浪江町大字中野字鶴屋59)

伝承館の展示見学 コミュタン福島ブース

日時 令和3年12/18土～12/19日

場所 東日本大震災・原子力災害伝承館内 (〒979-4401 福島県双葉郡浪江町大字中野字鶴屋59)

伝承館の展示見学 コミュタン福島ブース

## ■資料収集・保存（1）

### 1. 資料収集

- (1) 復興状況等に合わせた計画的な資料収集の実施  
(例：中間貯蔵施設輸送トラックのゼッケン、震災前の浪江町写真資料、NEXCO東日本資料など)
- (2) 地元自治体と連携した資料収集  
(例：楡葉町津波漂着物資料、浪江町請戸小学校ピアノ、双葉町避難所資料など)
- (3) 提供/保全の依頼・相談に基づく資料収集  
(例：小高産業技術高校開校記念式典関連資料)
- (4) 収集点数：計3,700点



文字パネルの収集・梱包作業の様子



中間貯蔵施設輸送トラックのゼッケン



避難所の仮設更衣室



津波で流されたピアノカ

19

## ■資料収集・保存（2）

### 2. 収集資料の保存・保全

- (1) 収集資料の燻蒸（2回）の実施
- (2) 消防車の防サビ処置を実施
- (3) 収蔵庫の整備（棚番号付与の上、資料の並び替え等を実施）
- (4) 収集資料の写真撮影（楡葉町津波漂着物資料、新聞など約1000点）

### 3. 資料の活用

- (1) データベースのさらなる活用（館内LANから閲覧できるように改修）
- (2) 資料の貸出
  - ①九州電力佐賀支店（写真パネル、川内村の防災無線ほか）
  - ②楡葉町（楡葉北小学校資料）

### 4. 次世代教育 博物館実習/社会教育実習生の受け入れ（各1名）



トラック燻蒸の様子



燻蒸効果測定用サンプル（左：カビ 右：虫）



20

## ■資料閲覧室の供用開始

1. 来館者の利便性向上のため令和4年1月オープン

(1) 利用時間

伝承館の開館時間と同じ。

(2) サービス

室内での閲覧とし、室内にソファやテーブルを配置して寛いで閲覧できる空間とした（室外持出・複写・貸出等は今後検討）。

2. 配架図書

震災関連の図書、各自治体の震災記録誌や広報誌、絵本展で展示した絵本などを閲覧できる。現在、約1,200冊を所蔵し、今後充実させていく。

3. 課題

図書の管理及び所蔵の有無を明確にするため、図書のデータ登録を行い、室内及びWeb上での検索機能の付加について今後検討する。



21

## ■研修（一般研修）

展示見学に加えて、下記プログラムを組み合わせた「一般研修」を実施。

※ 福島県観光物産交流協会との共同事業

<プログラム>

- ・語り部講話（被災体験の講話 40分）
- ・フィールドワーク（双葉、浪江町内を巡る 60分）
- ・ワークショップ（研修の振り返り 60分）



<参加者数>

令和3年度 158団体 9,227人（2月末時点）  
（開館後累計：231団体 12,758人）

▽令和3年度（2月末時点）内訳  
学校関係 99団体 7,714人  
その他団体 59団体 1,513人



<研修参加者の感想等>

- ・フィールドワークで実際の双葉町などいろんな災害にあった地域を見て感動した。伝承館の中もいろいろあってたくさん学べた。
- ・震災当日のことを鮮明に思い出した。自分は中通り在住なので、浜通りの皆様の苦悩を身近に知ることがなかなか機会がなかったので、大変よく知ることができた。
- ・最初は東日本大震災について知らないことだらけだったが、今回の学習で深く知ることができた。対策や災害が起きた後の行動など参考になった。
- ・語り部やフィールドワークなどでの説明もあって、震災当時のこと、今の現状など細かく説明してくれてとても勉強になった。スタッフの方が展示に合わせて詳しい説明をしてくれてありがたかった。また来たいし、他の人にも見てもらいたい。

22

## ■ 研 修（専門研修）

- ・復興や防災に関する専門研修のプログラム（教員向け、自治体向け、原子力防災担当者向け等）について令和4年度より運用開始するため、実施内容の検討を行った。
- ・今年度は、「一般研修」と館長及び上級研究員（非常勤）による専門講座を組み合わせたプログラム等を7回実施し、参加者のニーズの把握及び専門研修プログラムの内容の検討を行った。

### ▽実施例

10月23日	「放射線被ばくとリスクコミュニケーション」	高校生	27名参加
10月31日	「放射線と原子力防災」	高校生	35名参加
11月20日	「東日本大震災と原子力災害の伝承」	大学生等	27名参加
12月 6日	「震災関連学習の指導法研修」	県内教員	37名参加

### <研修参加者の感想等>

- ・専門家の言葉が非常に重みがあった。新しい視野を広げることができた。
- ・放射線について知ることができて良かった。高校生でも分かりやすい内容でとても勉強になった。
- ・福島県の現状は知らないことだらけだった。自分がまず知ることによって子ども達に本当に伝えたいことが見えてくると思った。



23

## ■ 調査・研究

- ・館長及び上級研究員（非常勤）が各研究テーマに基づき、客員研究員で構成される研究班を形成し、研究活動を実施した。

※ 客員研究員は24名委嘱

### 【研究テーマ】

高村館長

▶ 福島の環境と人をつなぎ、伝える

安田上級研究員

▶ 原子力災害下住民防護行動における対策の総合的検証

関谷上級研究員

▶ 東日本大震災から10年の記録収集、基本統計・データベースの作成、研究集成

開沼上級研究員

▶ 被災・復興の過程・課題の全体像を洗い出す



研究員採用パンフレット

- ・常勤の研究員の募集を行い、令和4年4月より4名が採用される見込みとなった。
- ・3/12 館長及び上級研究員の研究班による調査・研究部門活動報告会を開催。

### 【発表テーマ】

高村館長

▶ 伝承館語り部の分析、住民の放射線被ばくリスク認知調査を通じて福島の環境と人をつなぎ、伝える研究について

安田上級研究員

▶ 各種事故調査報告書や地域の震災の記録から良好事例と問題点を抽出。反省すべき点を明らかにし、研究の方向性を検討。原子力防災の拠点として地元と連携し、発信するための活動について

関谷上級研究員

▶ 被災住民の経年調査、地域の課題、若者の意識など、共同で継続している実証的な調査研究について

開沼上級研究員

▶ 震災後11年にわたるSNS上の福島関連の言説をいまから収集することの難しさ、記憶・記録をいかに残すかについて



調査・研究部門活動報告会

24

## ■その他（広報活動）

- ・ マスメディアを活用した広報を実施  
（県内テレビCM、県内新聞広告、WEB、業界紙広告を実施）
- ・ 若者世代向けにはSNSを活用した情報発信を実施。
- ・ チラシ・ポスターを作成。関係機関に配布の他、首都圏鉄道の車中広告にも活用。
- ・ 第6回防災推進国民大会(開催地：釜石市)におけるブース出展による参加。  
⇒ 約300人に概要説明



新聞広告



チラシ・ポスターの作成



インスタグラムやFacebookによる発信



ぼうさいこくたい出展風景

25

## ■その他（誘客活動 団体向け）

- ・ 学校・旅行代理店・行政等各法人への認知度向上と利用促進
- ・ 事故やトラブルの防止に努め満足度向上と継続利用への取組
- ・ 関係団体との連携強化により、プロモーションを展開

### 【訪問実績】

▽県立高校等	150校
▽教育委員会等	35箇所
▽民間企業	116箇所（旅行代理店等）

### 【モニターツアー企画】

- ▽県立高校教員モニターツアーを実施  
（令和3年8月開催 15名参加）

### 【関係団体との連携】

- ▽東北観光推進機構：「東北教育旅行セミナー」（札幌/東京）
- ▽福島県観光物産交流協会：「福島県教育旅行オンライン商談会」
- ▽福島相双復興推進機構：「JATA視察ツアー」対応
- ▽福島県空港促進課：「福島空港就航先旅行エージェント招請事業」対応



26

## ■その他（誘客活動 個人向け 及び施設間連携）

来館客の多数を占める個人客の更なる獲得のため、他施設と連携した企画や商品開発等の取組みをした。（令和2年度実績中、個人客割合7割：団体客割合3割）

### 1 旅行会社個人部門・企画部門担当者とのオンライン商談会実施 浜通りの多様な観光施設等と連携しての魅力発信

▽2022.3.2開催

参加施設 11団体

参加旅行業者14社42名



### 2 販売チャネル拡大

▽前年大手旅行会社6社に加え、新規2社追加（農観/HIS）

▽県民割参画令和3年11月～令和4年2月

▽東北DC連動「JTBまるごとクーポン」参画

▽植樹祭と連携した入館券割引



### 3 新商品開拓

▽震災遺構 浪江町立請戸小学校と連携し、相互の割引券の作成を検討中

▽その他施設との「共通入場券」を検討中

### 4 連携企画展示（再掲）

・震災遺構 浪江町立請戸小学校

「浪江町の学校と震災」（2021.11.10～）

・Jヴィレッジ（相互展示）

「Jヴィレッジパネル展」（2021.10.18～2021.11.29）

27

## ■その他（広報活動）

・主に教育関係者向けの誘客ツールとして「教育・研修旅行のご案内」と題したパンフレット（全16ページ、フルカラー）を作成。約2万部を全国の旅行代理店等に発送した。

・福島オフィス交流促進部と連携し、360度カメラを活用したVR動画を作成。研修事業のフィールドワークをPRする動画を伝承館の総合発信事業の一環として制作した。



新パンフレット  
「教育・研修旅行のご案内」

・伝承館独自のInstagram、Facebookを開設し、SNSを活用した情報発信を実施。

・語り部デビューや請戸小学校ピアノ展示など、積極的にプレスリリースを行い、報道機関の取材につなげている。

・国や企業と連携した発信事業を実施。復興庁の在京各国大使館等外国人関係者向け復興情報発信事業の中継拠点として伝承館を場所提供。KDDIの「音のVR動画」制作事業では福島県出身ミュージシャンと相双地方の高校生による演奏を伝承館内で収録した。



請戸小ピアノ  
報道発表

「音のVR」収録



28

## ■その他（視察受入）

政府、自治体、海外など様々な要人が当館を視察。

①政府関係者視察	19件延べ135人
②海外要人等	10件 110人
③自治体関係者視察	23件延べ186人
④民間企業等幹部視察	31件 268人（随行者含む）



4月24日 赤羽国交大臣視察



4月28日 オンラインによる  
行幸啓



1月14・19日 駐日使節団視察



2月18日 ドイツ大使視察

29

## ■収益事業

・来館者のサービス及び収益向上を目的に、防災グッズ等を製作・販売。

●販売実績（R4年2月末時点）約1,692千円（令和2年度 1,495千円）

### ●販売品目

- ・シャツ
- ・ブルゾン
- ・防災対策ボトル5点セット
- ・防災手ぬぐい
- ・防水ポーチ入りアルミブランケット
- ・8町村キャラクタークリアファイル
- ・8町村キャラクターガチャガチャ
- ・避難のこころえんぴつ
- ・福島民報社震災写真集（受託販売）

### 【令和3年度の動き】

- ▶ 伝承館ガイドブック販売開始（令和3年4月2日）
- ▶ 絵本「きぼうのとり」受託販売（令和3年6月10日）
- ▶ 絵本「ぼくのうまれたところ ふくしま」販売開始（令和3年7月31日）

### 【販路の拡大】

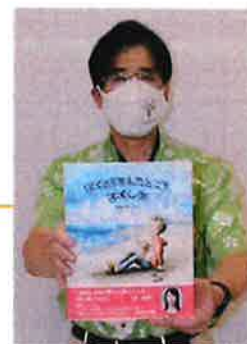
- ▶ 道の駅なみえ
- ▶ 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
- ▶ Jヴィレッジ



売店（チケット販売窓口脇）



販売しているグッズ類（例）



当館アテンダントスタッフが体験を寄せるなど製作に協力した絵本「ぼくのうまれたところ ふくしま」

30